

まちを支える農業



新たな農業振興計画を策定しました

町では、基幹産業の農業について、今後5年間（平成22年度から平成26年度）の取り組みや、施策の指針となる新たな「農業振興計画」を策定しました。

農業振興計画

新たに策定された計画では、持続的な農業・農村を築いていくため、農業・農村のあり方を見つめ直し、消費者と生産者との信頼関係を基本とした「食」の構築や「環境」との調和を重視しています。

また、「安定した生産」のための基盤づくりに積極的に取り組んでいくことや、これからの農業の「担い手」が、農業の魅力を感じることで

る経営基盤の整備に重点を置き計画を策定しました。

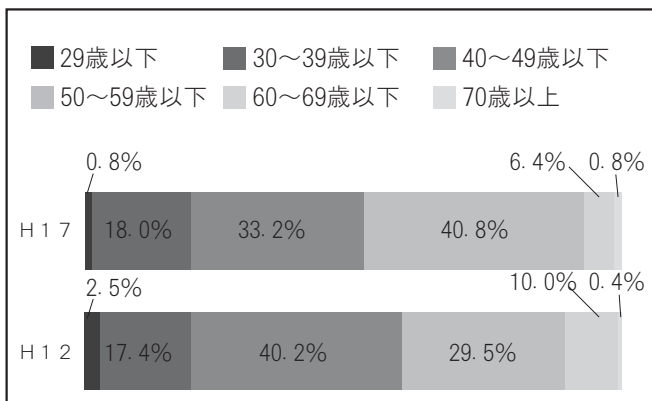
策定にあたっては、主体となる農業者の意見を反映するため「清里町農業振興計画策定委員会」を設置し、5回にわたる委員会による審議を経て計画を策定しています。

農業を取り巻く現状

清里町の農業は、経営規模の拡大や生産性の向上が進む一方で、担い手の減少や高齢化の進行など様々な問題に直面しています。実際に、農家戸数は、緩やかに減少を続けています。10年間毎で見ると、約50戸ずつ減少している状況にあります。

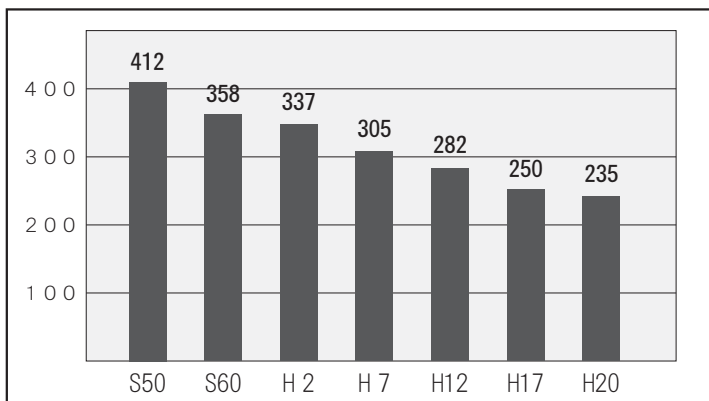
また、農業経営者の平均年齢が51・1歳となっています。また、戸数としてもほぼ半数の農業経営者が50歳以上であり、農業経営者の高齢化

【清里町の農業経営者の年齢階層別割合】



【農家戸数の動向】

(単位：戸)



が懸念され、優れた後継者の育成が重要となっています。さらには、WTO、FTA交渉の進展によっては、外国から安価な農産物が大量に入ってくる恐れがあることや、国の「新たな食料・農業・農村基本計画」による農政改革の推進など、農業・農村をめぐる状況は大きく変化しています。

町の農業の主な課題

輸入農産物や他の生産地との競合に勝ち抜き、力強い清里町農業を確立するには、消費者ニーズに即した、安全で良質な農産物及び畜産物を低コストで安定的に供給するとともに、付加価値を高める必要があります。

このため、これまで以上に、優位性を高める生産体制の強化や技術の高度化、施設の整備などを進めなければなりません。

農家人口の減少や農業者の高齢化が進む中で、効率的で安定的な経営を育成するため、高い技術や知識を有した人材の育成に取り組まなければならないかもしれません。また、意欲と能力のある担い手の自主的な努力を助長するとともに、活動に対する支援体制の整備が必要となります。

農業振興計画の基本方針

【実施期間】平成22年度～平成26年度

活力とゆとりある農業・農村づくりを目指し3つの基本方針を定め、さまざまな施策を展開していきます。

1 安定・安全・安心な農業生産体制の確立

- 安定・安全・安心に向けた情報システムづくり
 - (1)トレーサビリティシステムの整備
 - (2)圃場管理情報システムの整備
- 消費者・実需者ニーズに応えるための品質向上
 - (1)畑作物の品質向上のための取組強化
 - (2)乳質向上のための取組強化
 - (3)新規作物の導入の検討・推進・支援
 - (4)品質向上のための体制・施設整備
- 安定生産のための基盤づくり
 - (1)生産性の高い土地改良の推進
 - (2)畑地かんがい施設の維持管理と有効利用
 - (3)土づくりによる生産性向上
 - (4)適切な農地利用の推進
- 防疫体制の強化
 - (1)植物防疫対策の強化
 - (2)家畜衛生対策の強化

2 魅力ある農業経営の確立と担い手の育成

- 効率的な経営確立のための経営体の育成
 - (1)法人育成の支援及び取組強化
 - (2)農薬・肥料の適正使用
 - (3)複合経営による経営安定化推進
 - (4)経営支援システムの整備
- 担い手の育成及び確保
 - (1)後継者の育成
 - (2)女性の参画と能力発揮
 - (3)新規就農対策
 - (4)労働力の確保
- 地域資源を活用したアグリビジネスの振興
 - (1)アグリビジネス等の振興に向けた普及・支援

3 環境・景観と調和した農業・農村づくり

- 農業系廃棄物及び副産物の適正処理・利用による環境保全
 - (1)家畜飼養環境対策
 - (2)農業用廃プラスチックの適正処理
 - (3)堆肥等の適正処理及び管理
 - (4)でん粉工場廃液処理対策
- 農業・農村の多面的機能を発揮する環境整備と景観づくり
 - (1)農村景観の保全のための活動の推進